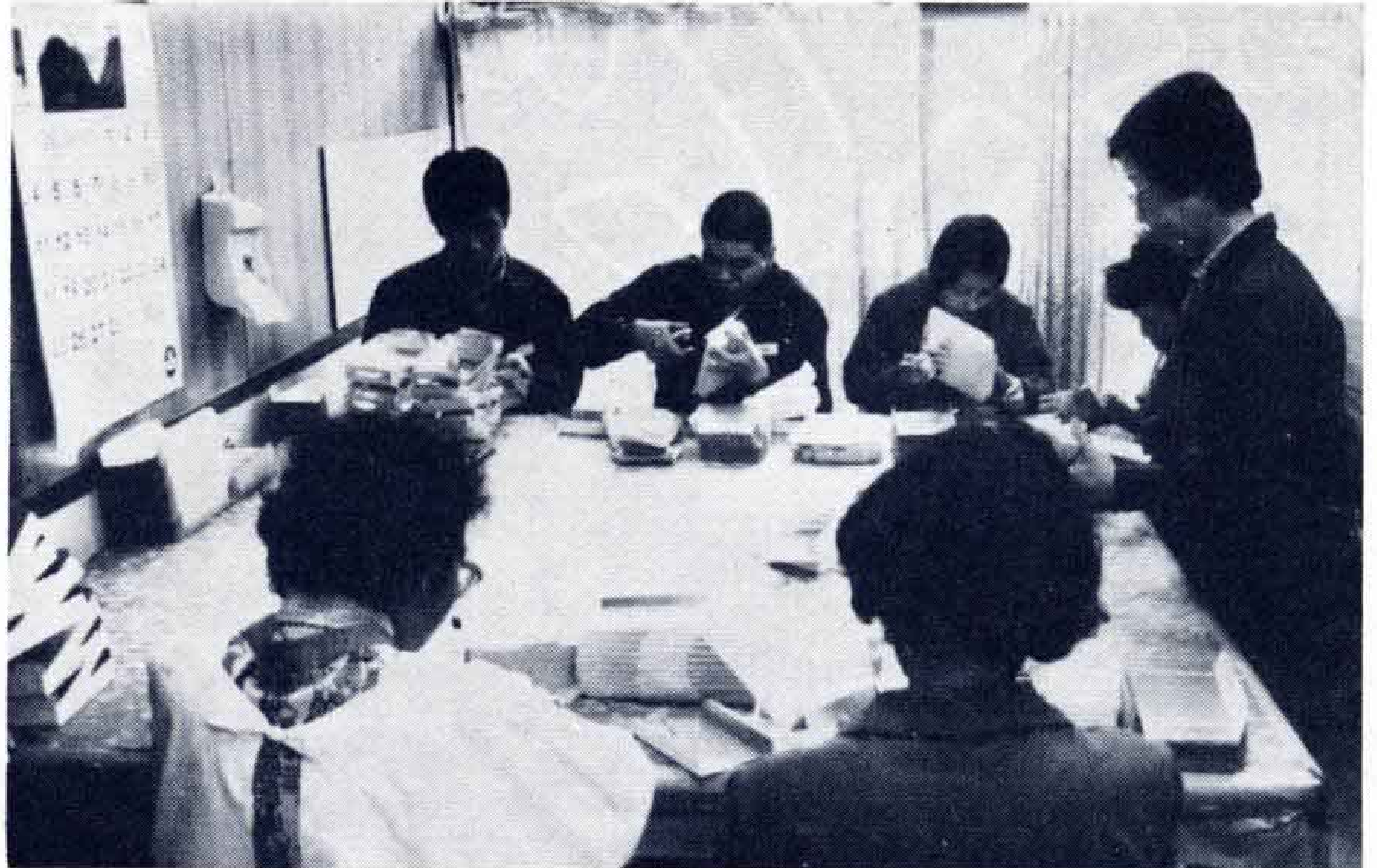




レポーターの亀田美由紀さん
主婦(28歳) 四丁河原下



つくし作業所の雰囲気はとても明るい

つくし作業所

障害者にも働く場を
子どもから自分自身も

心身に障害を持つ子の親にとって、子どもの就職は大きな悩みの1つ。家から通える職場があったなら……。このような望みを実現しようというのが、心身障害者小規模授産施設です。ちょっと聞きなれない名前ですが、市内にはこのような施設が3カ所あります。

今回は、この中の1つ「つくし作業所」を四丁河原下に住む主婦、亀田美由紀さんにレポートしていただきました。

より多くの仲間と

岳鉄吉原本町駅の踏切から東へ150メートル程の商店街の一隅に「つくし作業所」はあります。

間口二間の小さな玄関を入ると、ややきゅう屈そうに感じる作業場で、テーブルを囲んだ子どもたちは、手際よく作業をすすめていました。

1階が作業場と台所、2階が休憩室と更衣室。木造2階の建物は面積75平方メートル。

この作業所ができたのは昭和55年4月。家の中に引き込もっている障害者を、1人でも多く外に出し、よ

り多くの仲間と話したり、仕事ができるようにしよう、というのが始まりだそうです。初めは3人でスタート。その後、5人、6人と増え、現在では7人の子どもたちがここに通っています。ただし、子どもといっても17歳から48歳までの人たちです。

作業所には、子どもたちの他に指導員の岩川さんとそのお手伝いをしてくださる川島さん。それに子どもたちのお母さんもいます。

川島千津子さん(50歳)は、自分の娘さんも心身障害児でしたが、「1人で自立できるように」ということ

いたずらはやめて

柚木駅が泣いています

最近、国鉄身延線柚木駅の時刻表などが、心ない人のいたずらによって壊されてしまいました。このため、鉄道公安室富士派出所では、このようないたずらは絶対にやめてほしい——と呼びかけています。

柚木駅は、身延線が富士駅から西まわりに変更された昭和44年に開設。

現在では、通勤、通学などに多くの人たちが利用し、大変親しまれています。しかし、ごく一部の人によって、時刻表板が割られたり、階段のはめ板がはがされてしまいました。

利用者も「私たちの大切な駅をいたずらによって壊すようなことはやめて……」と訴えています。



壊された時刻表板